

横須賀市高齢者保健福祉計画(第8期介護保険事業計画) 進捗管理(実績と評価)

評価について

計画書に記載した取り組みの結果について、令和3年度の評価を行った。

計画書に数値込みで記載した取り組みの令和3年度の実行率については、見込み量または目標値と実績値を比較し、自己評価として5段階で評価した。令和3年度はA、B評価合わせて全体の53.6%であり、自己評価の基準を定めた取り組みの約半分について、基準を7割以上達成することができた。

ただし新型コロナウイルスの影響により、計画時の見込み量と実績が乖離したものも多かったため、単独ではD評価が最も多い結果となった。

計画書に文章で記載した取り組みについては、記載のとおりを実施した場合は「計画書に記載のとおり実施できた」または「おおむね計画書に記載のとおり実施できた」として評価し、実施できなかった場合は理由及び課題と対応について記載した。

今後、取り組みの結果における効果についても分析を行う必要があると考えている。

自己評価の基準(設定した指標の達成度)	項目数	割合	
A	90%以上	18	25.4%
B	70%以上	20	28.2%
C	60%以上	5	7.0%
D	60%未満	24	33.8%
E	評価不能	4	5.6%
合計	71	100%	

第4章 1 生きがいづくり

(1) 社会参加の促進

①シルバー人材センターへの支援

【シルバー人材センター登録会員数および受注金額】

P19

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録会員数	1,540人	1,630人	1,720人	1,199人		
受注金額	646,800千円	684,600千円	722,400千円	497,994千円		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナの影響により、特に民間からの受注が減少した。それに伴って「入会してもやることがない」状態となり、新規会員登録数も減少した。	入会説明会の開催やフリーペーパーへの広告出稿を通じ、会員数と受注の増加を図っている。

②老人クラブへの助成

【老人クラブ数および会員数】

P19

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
クラブ数	230団体	230団体	230団体	210団体		
会員数	13,600人	13,600人	13,600人	12,399人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	おおむね目標を達成できた。	引き続き老人クラブ活動の支援を行う。

③高齢者生きがいの家への助成

【生きがいの家助成団体数】

P20

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体数	13団体	13団体	13団体	9団体		

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	新型コロナに伴う活動休止や、構成員の高齢化に伴う解散があり、補助金申請団体数が減少した。	多くの団体において高齢化が進んでおり、今後も活動休止や解散が見込まれる。

⑥はつらつシニアパスの発行

【はつらつシニアパス発行枚数】

P20

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
6月分	6,000枚	6,000枚	6,000枚	4,823枚		
12月分	6,000枚	6,000枚	6,000枚	4,730枚		
合計	12,000枚	12,000枚	12,000枚	9,553枚		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	コロナ禍で目標値ほど発行枚数は伸びなかった。	路線及び運行本数等、利便性に地域差があるため、関係機関と協議することを検討する。

⑦幸齢者(高齢者)健康のつどいの開催

P20

評価と課題	評価理由
	新型コロナの影響により開催せず。ウィズコロナの中でも開催できるように、開催方式の見直し等を行っていく。

(2)居場所づくりと生涯学習

①老人福祉センター・老人憩いの家の運営

【老人福祉センターおよび憩いの家利用者数】

P21

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延べ利用者数	170,000人	170,000人	170,000人	26,164人		
実利用者数	4,800人	4,800人	4,800人	1,290人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍による利用減、入浴施設・カラオケの休止、一部施設の廃止を行ったため、利用者数が見込みを大きく下回った。	感染防止策を講じ、生きがい講座の充実、併設施設との連携・一体化により利用者数の回復を図りたい。

②コミュニティセンターの運営と「高齢者学級」の実施

P21

評価と課題	行政センター併設のコミュニティセンターにおいて高齢者学級を実施した。 (一部のコミュニティセンターでは、新型コロナ対策として中止した) わずかだが、定員に満たないコミュニティセンターがあるため、積極的な周知を行いたい。
-------	---

③生涯学習センターの「市民大学講座」の実施と講師登録

P22

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できたが、新型コロナウイルスの影響により、講座が一部延期・中止になることがあった。
-------	---

第4章 2 健康づくり

(1)生活習慣病の予防と早期発見

①特定健康診査の実施

P24~25

【特定健康診査受診率、受診者数および対象者数】

P25

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	35%	36%	37%	27%		
受診者数	29,750人	30,600人	31,450人	16,937人		
対象者数	85,000人	85,000人	85,000人	62,368人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標数値には達していないものの、令和2年度法定報告の受診率を早い時期に上回ることができた。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大きく受診率が減少した。徐々に受診率が戻り始めているがコロナ禍以前の受診率は上回っていない状況にある。未受診者をセグメント分けし、ターゲットをしぼった受診勧奨を通知・SMS・架電により実施する。

②特定保健指導の実施

【特定保健指導実施率、実施者数および対象者数】

P25

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施率	21%	22%	23%	6%		
実施者数	937人	1,010人	1,085人	116人		
対象者数	4,463人	4,590人	4,718人	1,953人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	例年、5月から9月にかけて、数値が動くため上記の数値は確定値ではないが、目標数値には大きく届いていない。実施率向上のため、継続的な対策が必要となっている。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものの、特定保健指導の実施率は低い傾向にある。令和3年度からは、ICTを活用した保健指導を開始し、令和4年度からは保健指導の勧奨通知作成、架電による利用勧奨及びICTを使用している保健指導の実施を民間事業者へ委託し、実施率向上を図っている。

③後期高齢者健康診査の実施と保健事業の実施検討

P25~26

【後期高齢者健康診査受診率、受診者数および対象者数】

P26

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	25%	26%	27%	20.4%		
受診者数	17,066人	18,223人	19,416人	13,690人		
対象者数	68,265人	70,088人	71,910人	67,040人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルスの影響による受診控えも影響していると考ええる。	これまでも受診勧奨のはがきを送付しているが、受診していただけるような内容について検討していく。

④がん検診等の実施

P26

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。その結果、令和2年度実績からは受診率が回復傾向にある。次年度も引続き、がん検診等を計画どおり実施していく。

⑤骨密度検診の実施

P26

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。令和3年度骨密度検診は、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小して実施した。ポスター掲示や、市HP等での勧奨を実施した。その結果、令和2年度実績からは回数・受診者数ともに回復傾向にある。次年度もポスター掲示や、市HP等での勧奨を引き続き実施する。

⑥歯周病検診の実施

【歯周病検診受診率】

P26

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	20%	27%	34%	12.2%		

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	新型コロナウイルス感染症の影響で目標の60%であった。	歯周病の自覚症状がなくとも定期健診を受け予防することが重要であり、更なる周知が必要。引き続き個別通知と健康教室等で定期健診の受診を勧奨していく。

(2)重症化予防のための取り組み

①生活習慣病重症化予防事業の実施

【対象者に対する勧奨通知送付率】

P27

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
送付率	100%	100%	100%	100%		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	対象者全員への通知を発送した。	今後も対象者全員に送付し、目標値達成を維持するとともに通知の内容が受診へとよりつながりやすいものとなるように検討を行う。

【医療機関への受診につながった割合】

P27

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	30%	30%	30%	32.1%		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	目標値を達成した。 (R4年5月31日時点)	健診の数値が一定以上の方には、通知に加えて架電による医療機関への受診を勧奨している。しかし、日中は不在等の理由により連絡がつかないことが多い。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、アプローチ方法について検討していく。

②慢性腎臓病(CKD)病診連携システム

P28

評価と課題	令和2年度から開始した慢性腎臓病(CKD)が疑われる人に対して、特定健康診査実施機関から腎臓専門医に直接紹介する慢性腎臓病(CKD)病診連携システムは、令和3年度においても滞りなく実施できた。 今後、より効果的な事業にするために、特定健診実施医療機関、腎臓専門医、かかりつけ医との連携を深めていくことが必要と考える。
-------	---

③糖尿病性腎症重症化予防事業の実施

【腎機能の低下が認められた糖尿病治療中の人への事業案内送付率】

P29

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
送付率	100%	100%	100%	100%		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	対象者全員への通知を発送した。	対象者の抽出から事業案内送付まで滞りなく行うことができた。

【プログラムに参加した人の割合】

P29

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	20%	20%	20%	11.4%		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	事業対象者79名のうち、プログラムに参加したのは9名で、目標数値には届かなかった。参加者9名は、全員、全6回の指導を完了した。	申込締切までにかかりつけ医への受診間隔が合わない等の理由により参加に至らない対象者も散見された。申込しやすい仕組みについて検討し、参加者数の増加を目指したい。

(3)保健事業と介護予防の一体的な実施

P30~31

評価と課題	令和4年度からの事業開始に向けた関係7機関との連携構築を行った。
-------	----------------------------------

(4)歯と口腔の健康づくり

①歯と口の健康づくり教室の実施

P32

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。依頼があった町内会やグループには、感染症対策に配慮した形式で開催した。 まだ高齢者自身の参加控え傾向があるため、チラシのみではなく動画配信を行っていく。
-------	---

②オーラルフレイル予防教室の開催

P32

評価と課題	新型コロナ感染症拡大防止のため年度前半は中止した。口腔機能検査を行うため、引き続き感染症対策に配慮しながら実施する。広報への掲載方法が変更したため、情報が行き届きにくくなっているが、介護予防担当等と共同し開催情報を周知していく予定。
-------	--

③生活歯援(しえん)プログラム(市民健診プログラム)の実施

P33

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。歯科健診を受診しなくても各自が歯の健康状態を把握できるが、結果表に基づいた行動ができるよう、市民健診、教室や地域依頼の教室等でも啓発していく。
-------	---

(5)身近な健康づくりへの支援

①健康づくりのための講演会や教室の実施

P34

評価と課題	新型コロナウィルス感染拡大により講演会は中止せざるを得なかったが、感染状況に合わせて可能な限り教室は実施できた。今後は感染対策に留意しながら実施していく。
-------	---

②地域で健康づくりに取り組んでいる団体等への支援

【健康づくりに取り組む団体の支援数】

P34

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体支援数	6団体	6団体	6団体	-		

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	新型コロナウィルス感染対応業務により支援体制が整わなかったため講師派遣はできなかったが、健康情報の提供は行った。	状況に応じて講師派遣を再開する。また、情報提供を継続実施する。

③シニアリフレッシュ事業の実施

【シニアリフレッシュ利用申請者数および助成枚数】

P34

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用申請者数	2,200人	2,250人	2,300人	1,727人		
助成枚数	4,500枚	4,600枚	4,700枚	3,474枚		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	コロナ禍で目標値ほど申請者数は伸びなかった。	利用率はコロナ前まで回復しつつある(54%)。65歳以上75歳未満の介護を「している方」への周知方法を検討する。

第5章 1 地域における支え合いの強化

(1)一般介護予防事業の充実

①介護予防普及啓発事業の推進

ア リーフレット等を活用した普及啓発

P36

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。また、配布に合わせて市老人クラブ連合会や民生委員児童委員協議会等でも周知を行った。さらに、出張型の介護予防教室等に用いるほか、情報が届きにくい高齢者に対し、移動販売店に配布を協力していただいた。今後も継続する予定。
-------	---

イ WEB介護予防教室の開催

P36

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。現在、WEB介護予防教室とともに介護予防DVDの周知を行っている。教室や地域依頼の教室等でも実際に活用をし、普及していく。
-------	---

ウ 介護予防普及啓発講演会の開催

【介護予防普及啓発講演会実施回数および参加者数】

P37

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施回数	1回	1回	1回	1回		
参加者数	140人	140人	140人	98人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値の70%の参加があった。また、団体にオンライン上での参加を呼び掛け新しい試みができた。	新型コロナウイルス感染症の拡大のため、ハイブリッド開催を1回実施。オンライン参加は個人・団体とし、会場16名、オンライン参加82名であった。 オンラインで介護予防講演会に参加する高齢者はもともと意識が高い方や、オンラインの環境を整えられる団体であった。現状では、講演会よりも少人数の教室として複数回実施する方が、より多くの高齢者が参加できるため実施方法の見直しを行った。また、令和4年度組織改正があり、同様の対象に対する講演会は、健康増進事業として実施予定。

【低栄養改善教室実施回数、定員および参加者数】

P38

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施回数	8回	8回	8回	6回		
参加者数	160人	160人	160人	63人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	実施回数は予定数の75%の実施であったが、コロナ禍による参加控えや広報よこすかの掲載方法が変わったこともあり、参加人数が振るわなかった。 回数が減ったのは、緊急事態宣言による施設の閉鎖による。	感染対策を講じて会場が閉鎖された回以外はすべて実施した。しかし、高齢者自身の参加控えが見られたこと、広報への掲載方法が変更したため、情報が行き届きにくくなっていることから参加者が伸びなかった。令和4年度より、介護予防教室の開催情報の配架先を増やし、対応している。

【運動機能改善教室実施数、定員および参加者数】

P38

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	8コース	8コース	8コース		
実参加者数 (延参加者数)	160人 (延480人)	160人 (延480人)	160人 (延480人)	137人 (延373人)		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	計画どおりに実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大により参加者が定員に満たないコースがあった。	感染対策を講じ、会場が閉鎖された回は振替を行い、予定の回数を実施できた。しかし、高齢者自身の参加控えが見られたこと、広報への掲載方法が変更したため、情報が行き届きにくくなっていることから参加者が伸びなかった。令和4年度より、介護予防教室の開催情報の配架先を増やし、対応している。

②地域介護予防活動支援事業の推進

ア 通いの場の充実

P38~39

【ふれあい地域健康教室開催回数および参加者数】

P39

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	50回	50回	50回	19回		
参加者数	1,500人	1,500人	1,500人	548人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染拡大により高齢者の通いの場の中止・縮小がみられたため目標の38%の実施であった。	地域活動には活動場所の確保が必要であるため、市全体の動向に左右されてしまう。地域包括支援センターと連携しながら、高齢者のワクチン接種の勧奨や、通いの場の感染対策に関する情報提供を引き続き実施する。

【地域型介護予防教室開催回数および参加者数】

P39

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	240回	240回	240回	87回		
参加者数	3,600人	3,600人	3,600人	1,229人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染拡大により高齢者の通いの場の中止・縮小がみられたため目標の36%程度の実施だった。	地域活動には活動場所の確保が必要であるため、市全体の動向に左右されてしまう。地域包括支援センターと連携しながら、高齢者のワクチン接種の勧奨や、通いの場の感染対策に関する情報提供を引き続き実施する。

イ ボッチャを活用した地域づくり

P39

評価と課題	内容
	通いの場の再開に合わせて、ボッチャを活用した地域のつながり作りが始まっている。全地域包括支援センターにボッチャを配置した。ボッチャを活用したイベントも始まっており、貸出については継続していく。また、介護予防サポーターフォローアップにボッチャについての時間を設け、ボッチャの審判ができるサポーターを養成していく。

ウ 介護予防サポーターの養成

P39~40

【介護予防サポーター養成者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	30人	30人	30人	15人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	目標の50%の参加であった。関係機関へチラシの配布や他教室実施時等に周知を行った。	コロナ禍において、地域活動の縮小がみられたため、介護予防サポーター養成講座への参加者が見込みよりも少なかったと考えられる。また、市が直営で養成する介護予防サポーターよりも地域型介護予防サポーターの方がその後の活動につながりやすいという点はある一方、養成講座を実施する地域包括支援センターに偏りがみられているため、地域差をなくすために直営でも実施している。引き続き、市で実施する介護予防サポーターのニーズと地域型介護予防サポーターのニーズについて、検証していく。

【地域型介護予防サポーター養成者数(地域包括支援センター委託)】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	60人	60人	60人	43人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標の82%の参加であった。地域包括支援センターから依頼があった際は、市のHPで掲載したりSNSで発信するなど、周知の協力を努めた。	養成講座を実施する地域包括支援センターに偏りがみられている。地域の実情に応じた対応が必要なため、一律的な実施を求めずには、地域包括支援センターの好事例を包括支援センター間で共有をしていく。また、介護予防サポーターの活動継続への支援として、研修案内や情報提供を行う。

【介護予防サポーターフォローアップ教室参加者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
参加者数	300人	300人	300人	147人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染拡大により、参加人数を制限する必要があったため、目標値の49%だった。	介護予防サポーターが新しい知識を得て地域で更に活躍できるように、講座内容を検討していく。また、介護予防サポーターとしての登録を継続していただけるように、研修案内等、情報提供を行う。

エ フレイルサポーターの養成とフレイルチェックの実施

P40~41

【フレイルサポーター養成者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	20人	20人	20人	8人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染拡大により、参加人数を制限する必要があったことや、積極的な周知を見送ったことなどから養成者数の達成度は目標値の40%だったが、養成講座は予定どおり開催することができた。	フレイルチェック受検者に対するアンケートを実施し、フレイルの恐れがある人に対するサポート教室を展開していく。また、フレイルサポーターの活動している地域でフレイル予防についての普及啓発を行っていく。

【フレイルチェック教室実施回数および参加者数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	10コース	12コース	6コース		
実参加者数 (延参加者数)	200人 (延400人)	250人 (延500人)	300人 (延600人)	89人 (延178人)		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルス感染拡大により、事業が2回中止となった。参加人数の制限や、積極的な周知を見送ったことなどあったが講座回数としては予定の75%実施することができた。	フレイルチェック受検者に対するアンケートを実施し、フレイルの恐れがある人に対するサポート教室を展開していく。また、フレイルサポーターの活動している地域でフレイル予防についての普及啓発を行っていく。

③地域リハビリテーション活動支援事業の推進

【地域の通いの場への医療専門職派遣団体数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
派遣団体数	3団体	3団体	3団体	4団体		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	6回の専門職派遣が派遣条件であったが、派遣方法を見直し、団体ごとのニーズに合わせて派遣できるようにした結果、4団体から依頼があった。	地域包括支援センターと連携し、リハビリテーション専門職の派遣を調整していく。今後、保健事業と介護予防の一体的実施事業としてもリハビリテーション専門職が関与する方向で調整をしていく。

【自立支援・介護予防のための地域ケア個別会議開催回数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	12回	12回	12回	12回		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	計画のとおり、年12回開催した。	高齢者の生活の質の向上を目指すためには、薬や口腔ケアの知識が必要との声があがったため、令和4年度から薬剤師と歯科衛生士の参加を開始する。 また、個人の自立支援・介護予防にとどまらず、本会議の積み重ねにより、地域課題等の発見・把握や地域づくりにつなげることを目的として、令和4年度からプログラムの一部見直しを実施。地域包括支援センターに所属する生活支援コーディネーターの参加を開始する。

(2)介護予防・生活支援サービス事業の推進

①介護予防・生活支援サービスの推進

ウ 訪問型短期集中予防サービス(訪問型サービスC)の実施

【訪問型短期集中予防サービスの利用者数】

P44

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用者数	7人	7人	7人	0人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	サービスの対象となる人(うつ傾向等により通所サービスの利用ができない人)が限られており、利用者数が0人であった。	利用実績が上がらないことが課題。KDBや地域ケア個別会議を活用して、対象者を効果的に抽出する方法を検討していく。

エ 通所型短期集中予防サービス(通所型サービスC)の検討

P44~45

【通所型短期集中予防サービスの利用者数】

P45

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用者数	7人	7人	7人	-		

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	検討を行ったが、利用者のニーズをつかみ切れず、令和3年度は実施に至らなかった。	令和4年も開始予定はないが、引き続き開始を検討していく。

オ 住民主体型訪問サービスの実施

【住民主体型訪問サービス事業費補助団体数】

P45

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
立ち上げ型	11団体	9団体	9団体	6団体		
継続型	9団体	13団体	14団体	7団体		

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	立ち上げ型及び継続型ともに目標値を下回った。 立ち上げ型は、新たな団体の立ち上げに向けた動きが一時的に中断したため、申請数が減少した。継続型は、コロナの影響で活動が減少し申請を見送った団体や新規の申請団体がなかったため減少した。	新たな団体の立ち上げについては、生活支援コーディネーターを中心に相談しやすい関係づくりを継続し、活動を応援していく。

(3)生活支援体制整備事業の推進

①多様な主体間のネットワークづくりの推進

P46~49

評価と課題	評価理由
	地域支えあい協議会の設置、生活支援コーディネーターの配置ともにおおむね計画書に記載のとおり実施できた。

②住民主体による活動の支援

ア 立ち上げ、運営への相談・支援

【住民主体で生活支援を行う団体数】

P50

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体数	48団体	50団体	52団体	42団体		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	コロナ禍でも新規で立ち上がる団体があったが、活動を休止する団体がそれを上回ったため、団体数が減少した。	コロナ禍の影響で立ち上げに向けた準備を中断した団体が多くある。コロナの影響が小さくなり、準備を再開する団体増が見込まれるので、そうした動きを支援する。また、活動を休止した団体についてもその後の状況を伺い相談支援を行う。

イ 普及啓発の推進

【講演会の開催回数および参加者数】

P51

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回		
参加者数	120人	120人	120人	60人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍の開催となり規模縮小及び実施方法を変更したため、目標値を下回った。	現地会場の規模を縮小のうえ、現地とオンラインのハイブリッドで実施した。コロナの影響による参加控えやオンラインに対応できない環境、周知の時期が遅くなってしまったことが参加者の減少につながった。 遅くとも3か月前には周知できるよう会場や講師との調整、チラシ等の作成を行う。

ウ 支え合い実践研修会の開催

P51~52

【研修会の開催回数および修了者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	-		
修了者数	70人	70人	70人	-		

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	新型コロナウイルス感染予防のため実施せず。	各地域の支え合い協議会の意向も反映しながら、開催の可否を検討していく。

エ 生活支援を実施する団体間の情報交換会・学習会の開催

【情報交換会の開催回数および参加者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	-		
参加者数	65人	70人	75人	-		

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	新型コロナウイルス感染予防のため実施せず。	団体活動者からは情報交換のニーズが出始めているため、感染予防をしたうえで開催できるよう検討したい。

【学習会の開催回数および参加者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	2回		
参加者数	65人	70人	75人	90人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	コロナ感染予防対策として人数分散のため、同内容の講義を2回実施し、合計90人の参加があり、目標を上回った。	支え合い団体は団体ごとの特色があり、学習会において統一したテーマを取り上げることが難しい。今後は支え合い団体へのヒアリングを参考に学習会が、団体活動への後押しとなるよう工夫していく。

(4)地域福祉促進のための連携・協力

P53~54

評価と課題	評価理由
	①民生委員児童委員との連携・協力について、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。なお、民生委員児童委員の負担軽減、担い手確保のために民生委員児童委員活動のためのQ&A集の作成、民生委員活動のパネル展示などを行っている。今後も引き続き継続していくとともに、さらなる負担軽減、担い手確保に向けた施策を検討していく。 ②福祉ボランティア、③横須賀市社会福祉協議会、各地区社会福祉協議会、④民間団体および事業者との連携・協力についてもおおむね計画書に記載のとおり実施できた。

(5)ひとり暮らし高齢者に対する支援

①ひとり暮らし高齢者等に対する支援

【ひとり暮らし高齢者登録者数】

P55

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録者数	10,580人	10,660人	10,750人	10,251人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	コロナ禍であったが、目標人数に近いひとり暮らし高齢者を把握することができた。	民生委員の負担を軽減し、効率的に対象者を把握できるよう、運用改善を検討中。

ア ひとり暮らし高齢者入浴料助成事業の実施

【入浴料助成事業利用件数】

P55

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用件数	92,000件	90,000件	88,000件	78,534件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値に届いていないものの、コロナ禍にもかかわらず、利用者が多かった。	銭湯が減少し、偏在しているため、利用できる高齢者が限られている。事業内容の見直しを検討中。

イ ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム設置事業の実施

【緊急通報システム設置事業利用台数】

P56

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用台数	3,100台	3,170台	3,240台	3,083台		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	年間の撤去台数が新規設置台数を上回ったものの、目標台数の95%以上を達成したため。	令和6年度中からの次期契約に向けて、対象要件等の検討を、引き続き進めていく。

第5章2 日常生活や将来に不安を抱える方々への支援

(1) 相談支援体制の強化

P58~59

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。また、令和4年度から係を統合し、相談の一括受付体制の強化を図った。

(2) 地域包括支援センターの機能強化

P60~62

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

(3) 地域ケア会議の充実

P63~64

評価と課題	内容
	「高齢者地域ケア会議」については、開催方法を変更し、在宅療養連携会議と一体的に実施することとした。 一体的に実施する会議では、関係機関が課題と感じているテーマについて、検討している。 「包括的ケア会議」及び「地域ケア個別会議」については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

(4)成年後見制度の利用促進

①よこすか成年後見センター(中核機関)の設置

P65~69

評価と課題	成年後見制度に関する相談・支援の実施、地域連携ネットワークの構築、成年後見制度情報交換会(協議会)の開催についてはおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 普及啓発後援会、市長による成年後見等の審判請求(市長申立て)の実施、成年後見制度利用支援事業の実施については以下のとおり。
-------	--

【普及啓発講演会の開催回数および参加者数】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回		
参加者数	70人	75人	80人	23人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナの影響があり、参加人数が抑えられた。	引き続き開催を周知し、普及に取りくんでいく。

【市長申立件数】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
件数	28件	31件	34件	41件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	高齢化の進展や一人暮らしの高齢者の増加、障害者の地域移行などを背景に成年後見制度のニーズが高まり、それに伴い市民後見人の選任数が増加したため、見込み件数を上回った。	成年後見情報交換会等を通じ、専門職団体をはじめ、横須賀市社会福祉協議会などと連携を図り、制度利用へ繋げる。

【報酬助成件数(65歳未満の人を含む)】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
件数	25件	30件	35件	20件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	助成対象が市長申立てに限定されていたため、見込み件数に満たなかった。	要綱を改正し、助成対象の拡充を図った。

②よこすか市民後見人の養成と活動支援

【市民後見人選任数】

P70

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延選任数	延60人	延70人	延80人	延62人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	高齢化の進展や一人暮らしの高齢者の増加、障害者の地域移行などを背景に成年後見制度のニーズが高まったため、それに伴い市民後見人の選任数が増加したため、見込み人数を上回った。	今後、さらに選任数が増えた際、市民後見制度を委託している社会福祉協議会の市民後見人に対するバックアップ体制の充実が課題。

【成年後見監督人選任数】

P70

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延選任数	延40人	延40人	延40人	延12人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	監督人なしで後見業務を適切に遂行することができるかと家庭裁判所が判断したケースが多かったため、見込み人数を下回った。	困難事例等の対応を事例検討や研修等を通じ、市民後見人へのフォローを行っていく。

(5)終活支援の推進

①「わたしの終活(しゅうかつ)登録(終活情報登録伝達事業)の実施

P71~72

【「わたしの終活登録」の新規登録件数】

P72

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規登録件数	200件	200件	200件	96件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染症により出前トークの講演依頼がなかったため、十分な周知ができなかったことによる。	民生委員等の関係機関を通じてPRに努める。

【出前トークなどの啓発活動回数】

P72

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	25回	25回	25回	0回		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染症により開催依頼がなかった。	開催中止の場合はパンフレットを送付して回覧を依頼する。

②エンディングプラン・サポート事業の実施

【「エンディングプラン・サポート事業」の新規登録者数】

P73

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規登録者数	18人	18人	18人	27人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	関係機関からの引き合いが多かった。	関係機関の会合等に出席して引き続きPRに努める。

(6)高齢者虐待の防止

①未然防止のための取り組み

ア 市民への啓発

【講演会の開催回数および参加者数】

P75

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回		
参加者数	180人	180人	180人	40人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍での会場開催のため参加者の密を防ぐため感染予防の観点から募集人数を60名とした。募集人数が目標値を下回ったため達成できなかった。	コロナ禍で感染予防の観点から会場開催で目標値を達成することが困難であるため、多くの市民に参加してもらえるようzoomや録画による配信なども検討したい。また参加者の多くは60代以上であるため幅広い年齢の方に参加してもらえるように内容や周知の工夫もしていく。

イ 関係機関を対象とした研修等の実施

【関係機関向け研修会の開催回数および参加者数】

P75

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	3回	3回	3回	3回		
参加者数	500人	500人	500人	254人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍のため感染予防の観点からzoomによる研修会を開催したが、ユーザーIDの上限があるとともに、IDごとの視聴人数を把握していなかったため目標値を達成ができなかった。募集人数を超える申し込みがあったため録画を行い、後日YouTubeによる配信を行った。	関係機関からは移動がなくなり参加しやすいとの意見もあり、今後もzoomによる開催を継続していく。また、IDごとの視聴人数も確認していく。

ウ 高齢者・養護者への支援

P76~77

【高齢者・介護者のためのこころの相談開催回数および延参加者数】

P77

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	35回	35回	35回	19回		
延参加者数	延60人	延60人	延60人	延25人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	緊急事態宣言による外出自粛などもあり、目標値に対して54%の達成率だった。参加者の来所面接に対しての不安感等も影響した可能性がある。	コロナ禍で介護者や高齢者がより孤立しやすい状況がある。広報やSNSによる周知だけでなく、日頃から高齢者や介護者の支援をしている関係機関にも周知し、必要な方に直接案内してもらうなど周知方法を工夫する。また、アウトリーチによる相談も積極的に活用していく。

②早期発見のための取り組み

P77~78

評価と課題	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>また市民に対しては講演会を年1回開催するとともに、チェックリスト入りのリーフレットを配布するなどし周知することで高齢者虐待がより身近なものと捉えてもらい虐待予防や早期発見に努めている。</p> <p>R2年度に比べR3年度の新規相談件数は増加している。</p>
-------	---

③迅速かつ適切な対応

P78～79

評価と課題	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 緊急性の高いケースについては適宜、必要な機関と連携をとりながら対応している。 通報者の半数以上が関係機関であるため、ネットワークミーティングの個別支援会議を年23回、全体会を年1回実施。個別支援会議では個別ケースの情報共有を図るとともに支援方針を検討している。全体会では地域の課題を把握するとともに関係機関の連携や支援体制の強化を行っている。</p>
-------	---

第5章3 適切な医療・介護体制等の整備

(1)在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

P81～86

評価と課題	<p>おおむね計画書に記載のとおりできた。</p>
-------	---------------------------

(2)介護人材の確保・定着支援と業務の効率化

①介護施設等の人材育成支援

ア 介護施設を対象とした研修の実施

P87～88

【モニター研修実施施設数】

P88

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
施設数	3施設	3施設	3施設	1施設		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	<p>コロナ禍で講師が施設を訪問することが難しく、3施設を見込んでいたが施設からの応募が1施設しかなかった。</p>	<p>令和3年度に研修を希望していたが、コロナで断念した施設もあったので、引き続き講師及び介護施設と連携して、開催するタイミングや実施方法を検討する。</p>

イ 地域密着型サービス事業所を対象とした研修の実施

P88～89

【地域密着型サービス事業所向け研修コース数および参加者数】

P89

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	2コース		
参加者数	40人	40人	40人	7人		

※1コース2日

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	<p>例年、対面開催をしていたがコロナ禍で参加が集まらなかったため、WEB開催に変更した。</p>	<p>事業所によってはIT環境が不十分であり、また、コミュニケーション研修は、対面の方が効果が高いと思われるので、令和4年度は対面開催を検討したい。</p>

②介護ロボットの導入支援

【介護ロボット試用貸出事業所数】

P89

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
事業所数	15カ所	15カ所	15カ所	15カ所		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。	<p>本事業は、平成30年度から介護施設等に介護ロボットやICTがどういうものを周知していく目的で実施してきた。</p> <p>しかし現在は、国が公益財団法人テクノエイド協会へ福祉用具・介護ロボット実用化支援事業を委託し、様々な製品の試用貸し出しを行っており、本市の事業よりも幅広く検討できる手段ができた。</p> <p>また、介護施設等において介護ロボット・ICTの導入の検討が進み、今後は、県補助金を財源に地域介護施設整備補助事業の一環として、介護ロボット・ICTの導入経費を助成していくこととした。</p> <p>それにより、令和3年をもって、本事業を廃止した。</p> <p>なお、介護ロボットの試用貸し出し及び介護ロボット見学ツアーとしての事業は廃止するが、介護現場のニーズに応じて、介護ロボットやICTの導入による負担軽減を支援するための事業は、引き続き検討していく。</p>

③介護の仕事の魅力発信(介護職員出前講座の実施)

P89~90

【介護職員出前講座およびキャリア教育の開催学校数】

P90

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
学校数	10校	10校	10校	5校		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルスの影響により、見込み件数には満たなかったものの、市内中学校において介護の仕事の魅力を発信することができた。	感染対策を講じたうえで、今後も計画書に記載のとおり事業を執り行う予定。

④外国人介護人材の育成支援

ア 外国人介護従事者を対象とした日本語研修等の実施

【介護についての日本語研修コース数および参加者数】

P90

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	2コース		
参加者数	14人	14人	14人	12人		

※1コース5日

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	コロナ禍で出国できない介護福祉士候補生や技能実習生がいたが、おおむね見込みのとおりと なった。	コロナにより、施設への受け入れ状況が変わる ため、引き続き施設等と連携し、状況把握につと めたい。

イ 受け入れ施設職員への研修実施

P90~91

【受け入れ職員研修開催回数および参加者数】

P91

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	2回	2回	2回	1回		
参加者数	8人	8人	8人	1人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	本研修を既に受講済みの職員が多く、見込みよ り少なくなった。	研修の内容を充実させ、既受講者でも受講でき る研修を検討していきたい。

⑤多様な機会における介護人材確保支援

P91~92

評価と課題	令和3年度は福祉部で後援したセミナー等はなかったが、今後も引き続き開催の周知や後援など を行うことで、介護従事者確保の機会を支援していく。 また、ネパールからの人材受け入れは、新型コロナウイルスにより令和3年度には実現しなかつた が、オンライン面接により2名が内定し、令和4年度に初の受け入れを行う予定。
-------	---

⑥介護分野の文書にかかる負担軽減

P92

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおりに実施し、各事業所にも浸透してきていると考える。 国等の動向を踏まえ、今後は申請書類等の提出方法に係る負担の軽減についても検討する必要が ある。
-------	--

(3)高齢者施設等における災害および感染症に対する備え

①災害に対する備えの推進

P93

評価と課題	<p>令和3年度は実現しなかったが、令和4年度からは、高齢者施設に対して非常災害計画作成の周知を行い、また、水害等の危険区域に所在する一部施設に対しては、市へ当該計画の提出を求める予定。 実地指導の場においても、災害対策計画の策定や避難訓練の実施、必要物資の確保などの実施状況の確認を行っており、実際の状況に即していない場合は、必要に応じて指導も行っている。</p>
-------	--

②感染症に対する備えの推進

P93

評価と課題	<p>意識啓発についてはおおむね計画書に記載のとおり実施したうえで、実地指導においても、高齢者施設等が実践している感染症対策について、確認を行っている。さらに、感染症対策を含む衛生管理等の新たな国の基準等についても、集団指導講習会の機会を活用し、周知・啓発をしている。 衛生物資の備蓄等の取り組みについては、高齢者施設に対し意識啓発を行うため、県と連携し、衛生用品の備蓄管理表の整備を行うよう通知を発出するとともに、市への提出を求め、平時からの感染症対策を促している。 また、国や県から提供を受けた衛生用品を備蓄管理し、新型コロナウイルス感染症が発生した高齢者施設等に対して不足している衛生用品を適宜配布し、感染拡大防止に努めている。</p>
-------	---

第5章4 認知症施策の推進

(1)認知症予防の推進

①早期発見のための取り組み

ア 認知機能評価(ファイブコグ検査)の実施

【ファイブコグ検査回数および検査人数】

P95

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
検査回数	10回	10回	10回	9回		
検査人数	300人	300人	300人	260人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を感じている高齢者が増えており、ニーズは高かった。緊急事態宣言中のみ1回、中止した。</p>	<p>外出自粛による認知機能低下の相談が増えてきているが、集合形式だけでない取り組みを検討していく必要がある。自粛中は、WEB介護予防教室としてホームページ上に認知症予防についての情報を掲載した。</p>

【もの忘れ相談会開催回数および参加者数】

P96

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	24回	24回	24回	22回		
参加者数	72人	72人	72人	43人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染症のため、教室や講演会の開催を自粛せざるを得ない状況であったため、2回中止となった。また参加者数もその影響で減少したと思われる。	記憶力の低下等が心配で相談に来た結果、日常生活に支障をきたすような初期・軽度の認知症と判定された方が多かった。感染症予防をしたうえでの開催について、周知する。

②認知症予防のための取り組み

ア 認知症予防講演会の開催

【認知症予防講演会開催回数および参加者数】

P96

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	1回	1回	1回	1回		
参加者数	200人	200人	200人	156人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値の78%の参加があった。また、団体にオンライン上での参加を呼び掛け新しい試みができた。	オンラインで認知症予防講演会に参加する高齢者はもともと意識が高い方である。より多くの高齢者が参加できるよう講演会方式ではなく、少人数の教室として実施方法を見直していく。また、組織改正があり、同様の対象に対する講演会は、別事業として実施することとする。

イ 認知症予防教室の開催

P96~97

【認知症予防教室コース数および参加者数】

P97

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	8コース	8コース	8コース		
実参加者数 (延参加者数)	240人 (延1,200人)	240人 (延1,200人)	240人 (延1,200人)	123人 (延550人)		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	コロナ禍のため、定員よりも実施数で評価。計画どおり実施することができた。	コロナ禍の影響か、認知症予防に関する関心が高まっているため、周知方法を見直し、継続実施。

(2) 認知症高齢者・介護者の支援の充実

① 認知症初期集中支援事業の実施

P98～99

【認知症初期集中支援チーム新規相談件数】

P98

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規相談件数	60件	65件	70件	38件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	相談件数は、63%の達成率であった。 原因として、コロナ禍で人とのつながりが薄れ、 早期発見・初期対応の時期を過ぎてしまうことが 考えられる。	コロナ禍で人とのつながりが薄れ、早期発見・初期 対応の時期を過ぎ、重度化してからや支援拒 否の案件が多くみられ、対応困難ケースとなっ ている。早期対応を行えるようにチームや地域包 括支援センターとともに研究していきたい。

② 横須賀にこっとSOSネットワークの周知

【横須賀にこっとSOSネットワーク事前登録者数】

P100

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録者数	100人	100人	100人	121人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	計画書に記載した見込みを上回ることができ た。 検索依頼件数の増加に伴い、各地域包括支援セ ンター等を通しての登録件数が増えたと思われ る。	SOSネットワークが、見守りとしての役割が担え るように関係機関と連携し、事前登録の推進、情 報発信を引き続き実施していく。

③ 認知症の各種相談・支援の実施

ア 認知症相談窓口の設置

【横須賀市における電話および窓口の認知症相談件数】

P101

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
相談件数	2,000件	2,000件	2,000件	3,485件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	計画書に記載した見込みを上回ることができ た。 認知症の理解についての知識が広まっており、 何かのきっかけから、市地域福祉課が相談先と して認識されてきているのではないかと考えら れる。	地域福祉課が総合相談窓口としての周知を行っ ていく中で多問題ケース等、認知症が絡むケー スが増えている。

イ 認知症ケアパスや認知症情報小冊子の発行

【認知症ケアパス(にこっとパス)および認知症お役立ちBOOK配布数】

P101

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
にこっとパス 配布数	5,000部	5,000部	5,000部	3,020部		
お役立ち BOOK配布数	3,000部	3,000部	3,000部	4,223部		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	にこっとパス配布数は目標を下回ったものの、お役立ちBOOK配布数は目標を大きく上回った。お役立ちBOOKについては、金融機関向けの冊子を新たに作成した。市内金融機関が配布に協力的であったため、目標を大きく上回った。	医療・介護関係機関等への周知は進んできたといえるが、一般企業や市民への周知が不十分であり、今後力を入れていきたい。

ウ 認知症高齢者介護者の集いの開催

P101

評価と課題	内容
評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

エ 多職種セミナーの開催

P101

評価と課題	内容
評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

(3) 認知症共生社会に向けた地域づくりの推進

① 認知症サポーターの養成

【認知症サポーター養成講座養成者数】

P102

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	1,000人	1,000人	1,000人	705人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	コロナウィルス感染症流行により、企業や地域内での講座開催について自粛傾向にあり、目標達成できなかった。	コロナウィルス感染症予防をした上での開催について、企業や地域へ呼びかけていく。

②認知症オレンジパートナーの養成

【認知症オレンジパートナー養成者数】

P102

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	25人	25人	25人	25人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	目標を達成した。	今後も養成者数を増やしていくとともに、オレンジパートナーの活躍となる場を提供していきたい。

③チームオレンジの構築

P102

評価と課題	コロナウィルス感染症流行により、活動の一部に制限がありながらも、オンラインでの活動を行う等工夫を行っている団体もある。既存のチームとの連携を深めていくとともに、オレンジパートナーの養成とフォローアップを行い、新規のチーム立ち上げ支援を行っていく。
-------	---

④認知症カフェへの支援

P103

評価と課題	コロナウィルス感染症流行により、活動休止しているカフェが多い。医療機関や介護施設の一部を使用したカフェも多いため、再開の目途が立っていない。既存のカフェの情報把握に努めるとともに、地域での認知症に対する理解を深め、新しいカフェの立ち上げ支援を行っていく。
-------	---

⑤「よこすかオレンジLINE」を活用した地域づくり

P103

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

(4)若年性認知症の支援、社会参加支援

P104~105

評価と課題	若年性認知症の理解のための啓発、本人発信の支援、若年性認知症コーディネーターとの連携についてはおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 若年性認知症のつどいの開催については以下のとおり。
-------	--

【若年性認知症のつどい開催回数】

P105

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	6回	6回	6回	5回		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	緊急事態宣言による会場の休館と感染拡大防止の観点から、8月の開催を中止した。	感染予防の観点から参加を自粛している本人や家族が孤立しないよう、若年性認知症コーディネーターと連携して個別に支援を行う。 また、開催時においては、本人や家族、支援者が安心して参加できるよう感染症対策を講じたプログラム内容を、引き続き検討していく。

【若年性認知症のつどい参加者数】

P105

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
本人・家族	120人	120人	120人	55人		
オレンジパートナー・支援者	120人	120人	120人	79人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	緊急事態宣言による会場の休館と感染拡大防止の観点から、8月の開催を中止した。 また、その他の開催日も感染予防の観点から本人や家族、支援者共に参加自粛の傾向にあったため、目標達成できなかった。	感染予防の観点から参加を自粛している本人や家族が孤立しないよう、若年性認知症コーディネーターと連携して個別に支援を行う。 また、開催時においては、本人や家族、支援者が安心して参加できるよう感染症対策を講じたプログラム内容を、引き続き検討していく。

第6章1 高齢者の在宅生活と住まい方の支援

(1)在宅生活の支援

①地域資源情報の収集と周知

P107

評価と課題	評価理由
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

③本市独自の在宅支援

ア 紙おむつ支給事業の実施

【紙おむつ支給事業利用人数】

P110

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	3,680人	3,840人	3,980人	3,020人		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値に届いていないものの、目標値のおよそ82%の利用者数であった。	国から第9期に向け事業の廃止・縮小を求められているため、対象要件等について、引き続き検討を進めていく。

イ 寝具丸洗い事業の実施

P110~111

【寝具丸洗いサービス事業利用人数と利用延件数】

P111

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	1,820人	1,850人	1,890人	1,455人		
利用延件数	3,660件	3,750件	3,820件	2,968件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	利用実人数・利用延件数ともに、目標値のおよそ80%であったため。	利用者が減少傾向にあるため、事業内容を検討中である。

ウ 出張理容等サービス事業の実施

【出張理容等サービス利用人数と利用延件数】

P111

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	1,950人	1,970人	1,990人	1,758人		
利用延件数	7,470件	7,550件	7,620件	6,274件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値に届いていないものの、コロナ禍にもかかわらず、利用者が多かった。	出張可能な理容師、美容師が減っているため、運用の見直しについて検討する。

(2)住環境の整備

①居住環境の整備

ウ 耐震診断補強工事等の助成

P114

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

②住まい探しの支援

P114~115

評価と課題	内容
	高齢者・障がい者等の住まい探し相談会については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 (相談会の対象者は、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律(住宅セーフティネット法)に基づく「住宅確保要配慮者」(高齢者・障がい者・子育て世帯等)としている。)なお、令和3年度は10回開催した(※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、8月・9月の計2回を中止した)。 不動産事業者等への協力依頼、民間賃貸住宅を活用したセーフティネット住宅制度については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

③市営住宅における支援

P115

評価と課題	内容
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

第6章2 防犯・防災体制の整備

(1)防犯への取り組み

①地域防犯リーダーの養成と防犯活動物品の支給

P119

評価と課題	令和3年度の地域防犯リーダー養成講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回のみ開催となった。防犯活動物品の支給は、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	--

②事業者、警察と市の三者防犯協定の締結

P119

評価と課題	令和3年度より、協定は事業者と市の二者協定とし、その他はおおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	--

③「よこすか防犯あんしんメール」の配信

P120

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

④迷惑電話防止機能付き電話機等購入費の補助

P120

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 なお、当該事業は市内在住の70歳以上の方を対象とし、購入金額の2分の1(上限額5,000円)を助成するものである。 令和2年度は10月1日～令和3年1月29日、令和3年度は6月1日～令和4年1月31日、令和4年度は5月10日～令和5年1月31日の期間で申請を受け付けている。
-------	--

(2)消費者被害の防止

①消費生活相談の実施

P121

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

②市民への周知啓発

ア 悪質商法被害防止講座の実施

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

イ ラジオ番組放送による啓発

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 消費者被害未然防止キャンペーンの実施

P122

評価と課題	令和2年度まで啓発物品の配付を行うキャンペーンを実施していたが、令和3年度からは費用対効果を考慮して啓発方法を変更し、公式ツイッターやSNSなどを通じて啓発を実施している。
-------	--

エ 「よこすか暮らしのニュース」、「よこすか消費生活レポート」の発行

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

オ 消費者啓発用回覧板の配布

P122

評価と課題	平成28年度に各町内会長に回覧板の要否について照会し、必要と回答したすべての町内会、自治会に配付した。その後は追加配付や新たな配付の希望があった町内会、自治会にはその都度配付を行っており、おおむね計画書に記載のとおりである。
-------	--

(3)災害等に対する備え

①災害時要援護者に対する支援体制の整備

P123

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

②福祉避難所の開設

P124

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

③自主防災組織の活動支援

ア 自主防災組織連絡協議会の開催

P124

評価と課題	令和3年度は、役員会は実施したが、参加人数を考慮して総会は実施せずに、全町内会・自治会長あてに関係資料の送付に留めた。
-------	---

イ 各種防災器材等の購入補助

P124

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 自主防災指導員育成講習会の開催

P125

評価と課題	令和3年度は、参加人数を縮小して、感染対策を講じながら講習会を実施した。
-------	--------------------------------------

④防火意識の普及啓発

ア リーフレット等を活用した普及啓発

P125~126

評価と課題	新型コロナウイルスによる社会情勢を鑑み、ポスティングなど感染リスクの少ない広報を実施した。市民の興味を引くリーフレットを作成する必要がある。
-------	--

イ ひとり暮らし高齢者等の防火訪問の実施

P126~127

【ひとり暮らし高齢者宅防火訪問件数】

P127

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
訪問件数	1,500件	1,500件	1,500件	471件		

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	訪問件数は見込み件数の約3分の1であったが、町内会回覧板を活用した防火広報を実施した。	従前、防火訪問は主に当直明けに実施していたことから、職員の健康管理、働き方改革などを考慮した訪問方法の検討を要する。

⑤予防救急の普及啓発

P127

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施でき、主に講習会開催時に普及啓発してきた。新型コロナウイルス感染拡大により中止せざるを得ない講習会もあったが、感染状況に合わせて可能な限り実施できた。今後も感染対策に留意しながら実施していく。
-------	--

⑥救急車の適正利用の推進

ア 救急受診ガイドの発行

P128

評価と課題	上記のとおりおおむね計画書に記載のとおり実施できた。しかし令和3年中(令和3年1月1日～令和3年12月31日)も、救急出動のうち約半数は入院を必要としない軽症の人だった。
-------	---

イ 患者等搬送事業者の周知

P129

評価と課題	上記のとおりおおむね計画書に記載のとおり実施できた。なお、ストレッチャー及び車椅子認定事業者は12事業者に増加した。
-------	--

(4)交通安全の推進

①高齢者交通安全教室の開催

P130

評価と課題	令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により高齢者交通安全教室は1回のみ開催となった。
-------	---

②交通安全運動の実施

P131

評価と課題	令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、イベント等は中止となり、啓発物品を配布する機会が少なかったが、各季運動期間における町内会等への啓発チラシの配布を行うことにより、交通安全啓発を行った。
-------	--

③交通安全活動物品の支給

P131

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

第7章4 介護給付適正化の推進

(1) 要介護認定の適正化

① 認定調査の適正化

ア 介護認定調査員研修の実施

P167

評価と課題	計画書に記載のとおり実施できた。 認定調査員研修について、県主催の研修(2回)を関係事業所に案内するほか、市主催の研修(6回、直営新規採用者3回分を含む)を開催した。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、認定調査員研修の開催方法をZOOMによるリモート研修に切り替えて実施) 実施後アンケートの理解・満足度については、3回とも「理解できた」「おおむね理解できた」が100%であった。
-------	---

イ 認定調査員通信の発行及び業務分析データの活用

P167

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 市調査員による調査票の全件チェック

P167

評価と課題	計画書に記載のとおり実施できた。
-------	------------------

エ 迅速な調査の実施

P167

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 また、より迅速な調査のために認定調査モバイルシステム導入を検討し、令和4年度稼働を目指している。
-------	--

② 審査・判定の適正化

ア 介護認定審査会合議体の平準化

P168

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

イ 主治医意見書の早期回収

P168

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 受診がない、検査結果が出ていないなど、各ケースの状況によっては早期提出を促してもなお提出が遅れる場合も見受けられるが、少しでも早期の認定につなげるために継続して取り組む必要がある。
-------	--

ウ 事務の適正化・効率化

P168~170

評価と課題	簡素化についてはおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 有効期間の延長については引き続き準備・検討中である。
-------	--

(1)介護給付の適正化

①ケアマネジャーの支援

ア ケアプラン点検の実施

P171

<p>評価と課題</p>	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 ケアマネ事業所10か所(1人ケアマネ、今まで実施したことがない事業所、頻回な生活援助のケアプランの届出をした事業所、国保連より給付実績を活用した情報提供を受け選定した事業所)について、事前に作成したケアプランや関係書類を提出していただき、当日、意見交換や相談を行った。10事業者10人のケアマネジャーからおおむね好評を得られるとともに、「具体的な記載や自立支援の意識をしながらケアプランを作成するようになった」などの意見もあり、ケアプランの振り返りの機会となった。 ケアプラン点検を受けた事業所の効果が図れないことが課題と考えている。実地指導などと連携して、ケアプランを確認していく。</p>
--------------	--

イ ケアプラン点検(集団検討会)の実施

P171

<p>評価と課題</p>	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 2回開催(リモート、1回2時間で当日に2回) テーマ:アセスメントから課題分析し、ストレングスを導き出しケアプランへとつなげる考え方について(97事業所参加) アンケートの結果では、おおむね参考になったとの回答であった。また実践研修についても、事前課題を用意するなど過去と違う形式で行えたことで、おおむね良いとの回答であった。また、研修を通して作成したケアプランについては、ストレングスを生かした具体的なニーズ・目標設定ができていることが確認できた。 事前課題の提出や当日は何名かの発表を行うことで、限られた時間の中で効率的に進め、考え方の共有をおこなうことができた。研修を通して作成したケアプランは研修後に提出してもらうことで、受講者の理解度を確認することができた。</p>
--------------	--

ウ 新任ケアマネジャー研修の実施

P171

<p>評価と課題</p>	<p>計画書に記載のとおり実施できた。 前年度のアンケート結果を参考にテーマを決め、リモートで研修を実施(35名参加)。 参加者の項目ごとのアンケートでは、「参考になった」との回答が71%であった。 リモートの研修のため限られた時間の中で、テーマを大きくすると説明を省略する部分が増えてしまうため、「内容が薄い気がした」との意見もあった。テーマを細かくし、そのテーマについて具体的に説明するとより理解度が高まると感じた。</p>
--------------	---

エ スキルアップ研修会の実施

P172

<p>評価と課題</p>	<p>計画書に記載のとおり実施できた。 スキルアップ研修(1回)及び管理者研修(2回)を行った(すべてリモート)。テーマと参加者は以下のとおり。 スキルアップ研修:現場で役立つケアマネジャーのスキルアップを目的として、新様式のケアプランについて書き方や考え方のポイントについて(91名参加) 管理者研修①:「業務継続計画(BCP)」について基本的な作成方法等について(81事業所参加) 管理者研修②:管理者や上司に求められる事例相談スキルについて(71事業所参加) スキルアップ研修の参加者アンケートでは理解度が97%であり、実務に即した研修ができたと思われる。 管理者研修第1回の参加者アンケートでは「参考になった」「まあ参考になった」を合わせると98%であった。 管理者研修第2回の参加者アンケートでは「参考になった」「まあ参考になった」を合わせると100%であった。 リモート開催のため、受講者から「他の受講している方たちの意見や感想などを知る機会がほしい」との意見もあり、発表やグループワークなどの形式を取り入れて、他の受講者の意見を知ることができるよう検討していきたい。</p>
--------------	--

②住宅改修の適正化

ア 事前・事後の審査

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 令和3年度の審査件数1,482件(全件)、現地調査件数1件(疑義があった1件について現地調査を行い利用者の利用状況、意向を確認) 現在、疑義のあるものについては、市職員がケアマネジャーや事業所に確認したり、現地調査を行っているが、現地調査を含め、理学療法士や建築の専門家の確認が必要と考えている。
-------	---

イ 介護保険住宅改修研修会の実施

P173

評価と課題	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。 住宅改修受領委任払い登録者やケアマネジャーへの制度の周知確認、及び適切な住宅改修の知識の習得のための役割を果たしているものなので、withコロナでの開催方法を検討していく必要がある。
-------	--

③福祉用具貸与の適正化

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの実地指導(令和3年10月～令和4年1月実施、24事業所) 軽度者への福祉用具の貸与について、説明が行えた。又、適切な貸与かの確認もできた。 軽度者への貸し出しの疑義について、相談票を提出させ、市の職員が適切か不適切かを判断している。確認方法は、主治医の意見書などからである。 本来は、理学療法士などが在宅を訪問して判断する必要があると考える。
-------	--

④縦覧点検・医療情報との突合

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 点検の結果、軽度者レンタル23件、入所退所4件を返還させた。点検項目については、必要に応じて変更や追加を行いたい。
-------	---

⑤介護給付通知の送付

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 令和3年12月17日発送 発送数:14,604通 送付期間:令和3年7月～9月までの給付実績 介護保険制度啓発のための説明を分かりやすく作り直す必要がある。
-------	---